

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第64号 2024年 3月 15日発

👉食べてはいけない?! 身近な植物👉

種類や摂取量によっては重大な事故となる場合もあります。

①



① ヨウシュヤマゴボウ

市街地で雑草化しており、近年よく見かける植物。

誤食部分：根、果実

根の誤食のほか、幼児による果実の誤食が発生しているようです。

症状：食後2時間程度で 腹痛・嘔吐・下痢

②



② スイセン類、

代表的な園芸品種。

誤食部分：根、葉

ノビルやニラ、タマネギと誤って食べる例が多いそうです。

症状：吐き気・嘔吐・下痢

③



③ チョウセンアサガオ

園芸品種。黄色または白色の大きな花が咲く。

誤食部分：根、果実・種

根をゴボウ、果実やつぼみをオクラと誤り、調理する事案が発生しているようです。

症状：眩暈、脱力、嘔吐、頻脈など

・保存しておいた観葉植物のタネを誤って調理し、食中毒を発症したケースもあるようです。

調理時に触る場所に置かないなど、日ごろから保管場所に注意しましょう。

・誤食事故を防ぐために・・・

「食べられる植物の近くに、有毒植物やよく似た植物を植えない」

「食用だと確実に判断できないものは、採らない・食べない・売らない・人にあげないことを心がけましょう」

1. 受入農家紹介

石原 克人さん (我孫子市南新木)

1. 家族

- 妻と2人。妻は野菜の収穫と直売所へ野菜の配達、品質の確認をしている。私は、野菜の製造、生産管理、機械保全、購買など、経理をしています。



2017.12.9 我が畑にて

2. 農業を始めるまで

- 定年になったら農業を始めようと思い、遊休地を見つけて地主に電話しても、すべて断られました。そこで農政課に連絡しました。
- 2009年10月から1年間、鈴木順一さん、高田さん、古川さんのところで農業実習をしました。

3. 農業歴

- 2011年3月1日から農業を始めて、13年になります。11日後に三陸沖地震が起きました。
- 野菜の必要施肥量を調べて、施肥設計をして、畑で秤に肥料を載せて施肥をしていましたがやめました。現在は、野菜の葉の色を見て不足分は追肥しています。

4. 援農ボランティア

- 鈴木順一さんの農業実習で援農ボランティアという**実際**の組織を知り、また仲間を知りました。

5. 農業を始めたきっかけ

- 家庭菜園から始まりました。昔、読んだE・Hフロムの「自由からの逃走」の中で、人間は自由になると何をしてよいかわからなくなると、いうところが、定年後何かをしななければいけないとおもいました。
- 農業を始めた頃の頃は、農家の人の全てが神様のような様子でした。

6. ここ数年の主な農作物

- 周年(夏を除く): キャベツ、ブロッコリー等
- 夏野菜: 西瓜、トウモロコシ、なす、ピーマン等
- 春野菜: ジャガイモ、玉ねぎ
- 冬野菜: 長芋、自然薯、里芋、ネギ、玉レタス等

7. 栽培している農作物の変化といえば

- 去年は7月から9月まで暑くてしかも雨が少なかったので、里芋に小芋ができなかった。水の掛け方が少なかったため里芋の収穫はゼロでした。
- 畑の一部分に育ちの悪いところがあり、一斉に育たないのが気になります。

8. こだわりの農作物に関して

- トマトの黄化葉巻病を何とかしたい。・ネギの白身を長くしたい。・自然薯をもっと太くしたい。

9. 農業を始めて思うこと

- 家の前に直売コーナーを作ったが、作ってすぐ、お金の入った缶からを持っていく人がいた。
- 農家にこの話をすると、これを経験している農家は多いようです。
- 畑のハウスに置いていた電気グラインダや電気ドリル、ステンレス製のトレーなどの器具がなくなっていて、対策としてハウスの入り口にかぎを掛けました。

10. 農家仲間について

- 農業実習でお世話になった古川さんとは、情報交換会の飲み仲間(先生)です。
- 自分の畑の周りには、先生が沢山いて、苗を見て、育っている野菜を見て、いつ収穫するのかを教わって、自分の野菜に何が足りないかを教えてもらったり、いつもオン・ジョブ・トレーニングさせてもらっています(有難いことです)

11. 好きな人：新田次郎(山岳小説など)、開高健(釣りの随筆、OPA など)、植村直己(冒険旅行記など)
12. 好きな歌：・早春賦：「春は名のみ・・・」の歌詞が好きです。
・夏は来ぬ：一番の「卵の花の・・・」、農業を始めて、畑の境木として卵の花を知りました。
13. 子供頃のエピソード
・自分は転校が多かったので、転校の最初の日、授業が始まるまで、クラスの隅にいて、その時間が嫌でした。先生が教室に入ってきた時に紹介されましたが。

2. 援農ボランティア養成講座に参加して

養成講座第 20 期生 徳永 正幸

令和5年10月14日から開催されました援農ボランティア養成講座に参加しました。

私が本講座に参加したきっかけは、「我孫子市で地元の農家さんのお手伝いをする援農ボランティアという活動があり、一緒に参加してみないか」と友人からお誘いをうけたことでした。以前、趣味で山菜取りをしていたこともあり、土いじりは嫌いではなかったので、軽い気持ちで1月から援農体験制度から参加させてもらいました。



援農ボランティアの登録は、本講座で座学と農家での実技実習を受け、「修了証書」の授与を受けて正式登録となりますが、私の場合は実技実習から入り、養成講座の受講で正式登録という形になりました。

本講座の主な内容ですが、講座回数は5回で、第1回が開校式と座学、第2回から第4回が実習、第5回が閉講式でした。

第1回の座学の主な内容は、「我孫子の農業について」、「あびこ型地産地消推進協議会の諸活動について」、「援農ボランティア活動について」でした。

我孫子市の主産業はコメを基幹作物とした農業で、約8割が兼業農家、高齢化も進んでいて、担い手不足が課題になっているとのことでした。援農ボランティアは、あびこ型地産地消推進協議会内の活動で、作業内容は畑関連作業(草刈り、植え付け、枝切り、後片付け等)と水田関連作業(種蒔、田植え、稲刈等)、午前・午後で活動時間が分かれ、それぞれ約3時間の活動時間です。その他、活動時の注意事項等がありました。

第2回は岡発戸の鈴木農園、第3回は湖北の阿曾農園での実習でした。農家さんの丁寧な説明と指導を受け、楽しく実習できました。

第4回は17の受入農家さんへの訪問でしたが、皆様とご挨拶しながら、いろいろとお話もでき、有意義な訪問でした。また、ボランティア参加時の訪問場所がわかり、大変役立つものでした。

第5回の閉講式では受入農家さんから「食」を支える農業への情熱と農業の実際のお話をお聞きし、感心いたしました。最後に修了書授与と諸手続きをし、終了となりました。

ところで私は我孫子市に住むようになって30年になります。転入当初は手賀沼の水が緑色で、匂いもきつかったのですが、手賀沼脇の土手でオケラがいて、土地は良さそうなので、土筆やヨモギが食べられそうだな、と思ったことを覚えています。土いじりや農作物にはそれなりに関心があったのですが、援農ボランティアという

活動があることを今回、初めて知りました。子供を通してのボランティア活動は参加してきましたが、20年も前からこの活動があったとは、きっかけがないとなかなか知れないものだなと思う次第です。「食」の地産地消については、安心安全の観点から関心があったのでもっと早く知っていればなと思った次第です。

3. 行 事

1. ついて食べよう（餅つきをして丸餅を作り、食べる）

令和5年11月25日（土）に中野農園で開かれました、参加者が17名でした。10時頃より、モチ米をせいろで蒸し、餅つき機でコネ、適当なコネ具合で臼に移しいよいよ餅つきの始まり、「ついて」は子ども達もこわごわでしたがお母さんに杵と一緒に持ってもらいゆっくりつき始めました。ついた餅は丸モチに仕上げました。つきたての餅と、スタッフが作ったけんちん汁で「食べよう」が始まりました、大小様々カタチがいろいろな丸餅を黄な粉・からみ（大根）・あんこをつけてけんちん汁と一緒にお腹いっぱい食べました。



2. 年末のつどい

令和5年12月23日（土）に南近隣センターで午後6時～8時で開催されました。農家さん、会員、農政課が参加し36名の方が参加し、齊藤会長・星野市長の挨拶で始まり「風」さんが調理したご馳走を頂き懇談をする途中では農家・新会員・農政課の紹介があり又ビンゴゲームでは農家さん提供の野菜の賞品ができました。



3. ちびっ子餅つき大会

令和6年1月20日（土）に「水の館」手賀沼親水広場にて午前10時から開催し、星野市長もご来場され、「ちびっ子餅つき」を農家の方々の付き添いで270名のちびっ子たちが3回搗きました、搗いた後はミカンをもらい満足気でした。又そのあとはバルーンアート・獅子舞・似顔絵・手づくりおもちゃなどで一日楽しみました。模擬店は地産地消の磯辺焼き（切り餅を炭で焼き醤油海苔で売りました）とカレー・うどん・蒸しパンそして無料配布のお汁粉でお腹を満足してもらいました。最後の方では雨模様となりました。当日は能登半島地震の義援金の募金を行いました。

募金額 11,046円 募金先：中央共同募金会 ⇒ 被災地へ

4. 第48回消費生活展

令和6年2月3日（土）4日（日）の両日、我孫子ショッピングプラザ3階「あびこ市民プラザ」で第48回我孫子市消費生活展が行われました。開会に際して星野市長よりご挨拶がありました。2日間の入場者は587名です。今回は8団体の参加でした、全体テーマは「持続可能な社会を目指して ～みんなで進めようSDGs～」、私たちの団体テーマは「農・米」とし全体として4枚のパネルを「米」で通しました「米の収穫量」「コメのゆくえ」「コメの値段」「地産地消の米」とそれぞれをパネルで表わしました。



4. ちば食育推進大会

日時：令和6年2月1日（木） 午後1時～4時

場所：千葉市生涯学習センター 2階ホール



1. 講演：バランスのよい食生活の実践に向けて！

やってみよう グー・パー食生活：

千葉県立保健医療大学名誉教授 渡邊 智子

2. 事例発表：我孫子市学校給食への地産地消の取組について

あびこ農作物直売所あびこん 大炊 三枝子

あびこ型「地産地消」推進協議会 齊藤 徳剛

我孫子市環境経済部農政課主任 西田 集

・役割：あびこん・学校給食コーディネーター(学校(栄養士)と地元農家とのパイプ役)

地産地消(学校給食支援部会)・学校への農産物搬送、週2回程度の搬送

農政課 ・コーディネーター委託、搬送車両の貸出し他

・我孫子の給食事例の特徴

「農家と栄養士のパイプ役」「搬送ボランティア制度」「我孫子産野菜の日の設定」

「各学校に栄養士を配置」など先進的な運用制度

・今後の課題

生徒数が多い学校への対応：需要が供給を上回る状況

農家の高齢化：平均年齢が70歳近い

地域活動への取組者不足：定年延長によりボランティア活動に変化でた。

3. パネルディスカッション

バランスのよい食生活と地産地消

(食育の推進に向けた課題と解決方法について)

コーディネーター：千葉大学名誉教授 明石 要一

パネリスト：渡邊 智子、大炊 三枝子、齊藤 徳剛、西田 集

木更津市、佐倉市、匝瑳市等から学校給食のシステムなどの質問が有りました。

渡邊：行政と市民団体として良好な関係を感じる。

学生ボランティアとの協力・給食納品に関わる農家への生徒からの手紙など提案。

大炊：学校給食コーディネーターは農産物の選択も納入品の栽培履歴などをチェックしながら出荷を調整している。給食は調理時間に限りがあるため、学校が望む農産物の形やサイズにも気を配っている。

齊藤：援農ボランティアは農家の希望日と合わない日があり、新規メンバーを募集している。

西田：学校給食の4者会(教育委員会・農政課・あびベジ・地産地消)は10年以上、年3回行われ、納品状況・今後の対応等が話し合われる。関係者のコミュニケーションにより最適な運用を検討している。

明石：我孫子市の給食事例は県内でも特徴的である。農業分野の課題解決のためにも我孫子の農業の売り出し方を明確にするべきでは。(例えば、ふるさと納税)

5. 新嘗祭へ粟を献穀して

大炊 三枝子（久寺家）

令和5年2月に、我孫子市から新嘗祭の粟献穀者として任命されました。

新嘗祭とは、毎年11月23日に天皇がその年に収穫された新穀を神々に供え、五穀豊穡を感謝する皇室の祭儀だそうです。千葉県は掌典長からの通知で県内地域単位ごとの輪番制を取っているようです。そこで令和5年は我孫子市の順番に当たりました。献穀者は精米（1升）を1名、精粟（5合）が1名です。我孫子市としても市制施行後初の献穀になり、その粟献穀者として私が任命されましたことは私にとっても大変名誉なことですので、快くお引き受けさせていただきました。



粟を栽培するに当たっては栽培未経験でしたので、管内の農業事務所様のご指導と我孫子市農政課職員の方々のご協力で行きました。まず4月に最初の作業としては圃場の整備。しばらく耕作されていない屋敷畑の耕運からで、5月11日に肥料散布。翌週の18日に1回目。25日の2回に亘り播種を行いました。運のよいことに翌日、降雨があり3日目には全て発芽しました。次の作業は、間引きです。6月8日に1回目を、22日には2回目の播種分の間引きです。しばらく成長させた後7月10日の土寄せ作業。その後、8月4日の追肥と自然農薬散布による病害虫予防等々、7月以降は猛暑の中、30分置きの休憩を挟みながらの過酷な作業でした。

8月から9月まで成長期です。丈がかなり伸びて収穫間近になってきたところで、なんと台風上陸の予報があり、急遽、倒伏防止策で粟の周囲と圃場中間に支柱を立てマイカー線で繋ぎました。またしても運良く、台風の直撃を避けられ倒伏の被害は免れました。そしていよいよ収穫の日がやって来ました。9月14日、総勢5名でそれぞれ手に鎌を持ち、猛暑の中、ひたすら黙々と刈り込み束ねて、乾燥させるためのビニールハウスにおだ掛けして行きました。あまりの暑さで誰一人言葉を発することが出来ない程でした。そんなこんな自然との闘いの連続でした。そして、最後の圃場での作業は脱穀、精粟です。9月28日、屋根のある作業場がないため、圃場にブルーシートを広げ、その上での脱穀、精粟作業はまたしても、暑さとの闘いでした。

いよいよクライマックスの選別作業です。これは10月5日に室内で行われたので良かったのですが、直径1ミリにも満たない粟の選別作業は8名程で、5合を集めるのに、まる1日かかってしまいました。やっとのことで終了し、本来ならば、献穀を献穀者が皇居に持参する予定でしたが、インフルエンザが流行して来たということで、郵送による献穀になり、皇居に入れる期待も叶わなかったですが、何とか無事に献穀の任を果たすことが出来ました。これも、ここまで栽培指導下さいました農業事務所の方々、暑い中での作業のお手伝いをして下さった農政課の職員の方々や関係者の皆様方のおかげです。紙面をお借りして感謝を申し上げます。今回の献穀をきっかけにして我孫子の農業の発展に弾みがつくことを期待いたします。

発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 齊藤徳剛

住所：270-1146 我孫子市高野山新田193（「水の館」2F）

（業務日 月・火・木）9：00～17：00

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail info@abiko-chisan.com HP <http://abiko-chisan.com/>

（協議会ホームページではカラーでご覧いただけます）

